[redacted]いじめの防止に向けた児童生徒の主体的な活動【県立学校】

ピンクシャツ運動

○生徒会の生徒が中心となりポスターを作成し、生徒昇降口に掲示していじめ防止を訴えた。
○多数の生徒が腕章を腕や鞄に巻き、運動に参加した。
○文化祭において、生徒会役員が、「ピンクシャツデー 運動」にちなんでピンクネクタイを着用し、舞台発表の幕間にステージに登壇し、一人ひとりのいじめに対する思いを語り、いじめ撲滅をすべての生徒に訴えかけた。
○朝の登校時にピンクのシャツや小物を身につけ挨拶運動を行った。
○文化祭や「ピンクデー」を設定し、ピンクの小物を身につけるなどして啓発活動を行った。
○生徒会役員と美術部・漫画研究部の部員が協働し、ピンク色の缶バッジを共同して制作し、3学期に全校生徒に配布して、いじめ反対の意思表示をする予定。
○生徒会執行部が、標語を募集し、優秀標語をプリントしたピンクTシャツを作成した。
○生徒会執行部が、標語を作成し、ピンク色の紙に印刷し、教室掲示した。
○生徒会でピンクのヘアゴムを全生徒教職員分購入、配付し、3日間、髪を結んだり、手首にはめたりしていじめ反対の意思表示をした。
○ピンクシャツ運動の話を聞き、共同ポスターを作成した。
○「ピンクのかがや木」運動と題し、児童生徒の手形をピンク色で取り、画用紙に描いた木に貼り付けた。友だちにしてもらって嬉しかったことを別紙に記入し、木の幹に貼り付け、他者や家族への思いやりや感謝の気持ちを育んだ。ピンクシャツデーの調べ学習を行い、ワークシートに記入し、後日、パワーポイントを使って発表を行い、「いじめを許さない」という意思を再確認した。
○文化祭来場者に、児童生徒会長が作成した「ピンクシャツデー」の説明と「いじめを無くしたい」とする自分たちの願いを記したメッセージを、ピンクの紙にプリントして配布し、紙すきの授業で作成した作品にピンクのードを添えて、来場者に配布した。
○いじめに対する自分の思いをピンクのシャツを模したカードに記載し、廊下に掲示した。

挨拶

○生徒・保護者・教職員が一緒になっていじめ防止月間挨拶運動 を行い、生徒会執行部、クラブ有志の生徒が参加した。
○生徒会が、いじめはどうしたらなくなると思うか話し合い、まずは「あいさつ運動をすることにより、生徒一人ひとりと顔見知りになり、なんでも話せる きっかけを作り、いじめの生まれない明るい学校の雰囲気や環境を作った。
○児童生徒会が、「一日のスタートを笑顔ではじめる」「普段とようすの違う友だちに気づく」「学部を越えて気軽に話ができるようになる」ことなどを目的に、児童生徒会役員が各曜日の当番を決めて昇降口で「朝のあいさつ運動」にほぼ毎日取り組んだ。

学校行事

○生徒会執行部が、11月を「いじめ防止月間」として捉え、標語を作成し、全校生徒集会において、現状を伝え、当事者（被害者、加害者）、第三者の視点で説明を行い、全校生徒に「いじめ」の無い学校生活を呼びかけた。生徒会長が標語に込めた思いと「いじめ」は絶対に許さないという意思、日常目にする「いじり」の現場で、いじられている側が苦痛を感じたら「いじめ」になること、また、いじられている側は言い出せないかもしれないことから、境界線を付けることは難しいことを伝えた。最後に、「いじめ」と感じたら「いやだ」という意思表示、言えないときは「SOS」を出すこと、知らんふりはせずに相談することを訴えた。
○文化祭の開会式の挨拶で、生徒会副会長が行事をとおしての仲間づくりの大切さとみんなが安心して楽しめる学校にするためには、いじめを絶対にしないことを全校生徒に訴えた。

周知・啓発

○生徒会で話し合い、「生徒会通信特別号」を作成し、8月の高校生意見交流会参加報告、スクールカウンセラーや外部機関への いじめや悩み」事相談のすすめ、「いじめ」を起こさせないために 自分自身や身近な人を大切にすることなどを訴え、生徒全員へ学期末に配布した。
○生徒会で話し合い、全クラス掲示用の「生徒会通信」に「いじめ防止月間」の紹介と安全安心な学校づくりへの呼び掛けメッセージを掲載した。
○生徒会で話し合い、いじめ防止に係る標語を作成。玄関や教室に掲示した。
○生徒会でいじめ防止啓発ポスターを作り、各クラスや校内に掲示した。

別紙2